

九夕 日刊 磐城時報

編輯部 石城郡平町新田十四番地 電話 八八八 印刷部 石城郡平町新田十四番地 電話 八八八 發行部 石城郡平町新田十四番地 電話 八八八 廣告部 石城郡平町新田十四番地 電話 八八八

哀愁の涙さへ新たに

入山殉職者の社葬

十六名の柩を安置 貴顯紳士數百名參列

去る七日湯本町入山炭礦第五坑に十六名の柩は入山立國自治會内に於ける瓦斯爆發の死者は其眞の手によつて葬列の上第四坑後入山病院に於て手當中、死亡附近火葬場に運ばれ各別々に茶した一名を加へ全部で十六名に昇に附された。入山會社門野社達したが、會社では即日各遺族長並に漆野坑務所長の弔辭如左に對し金五十圓宛の香奠を贈り

七日夜は社員手分けの上心からなる通夜を行ひ八日午後一時から坑務所側廣場に於て盛大な社葬を営んだ。正面に祭壇を設けて死者十六名の柩を安置し花輪其他供物を備へ、右方並に正面には數百名の來賓參列、左方には各遺族席を設けて定刻を待つ。午後一時僧侶湯本町惣善寺住職外十數名出仕し惣禮の後社葬執行に先だつて葬儀委員長吉田宗雄氏挨拶を述べ、導師の焼香、讀經等あり、香煙縷々として盡きず、悲愁の涙に濕つた遺族席を掠めてのよと變つた初夏の空に消えゆく、一しは哀愁の情をそよる、僧侶の讀經終り入山探炭會社長代理渡邊重役漆野坑務所長、大貫技術部長、樫村平署長、高木湯本町長其他數氏の弔詞朗讀後施主、遺族の親戚、從業員の順で焼香を行ひ葬儀を終つたが、それと同時に

諸君の壯烈なる遭難を見るに至りました事は一山の主宰者である私として錯愕爲す所を知るに由なく泣き鬼神に訴へるとも更に及ばないの有様であります去れども徒らに諸子の死を悲しむ事は私の心事ではありません生前職務に忠實克く社務に貢献せられたし諸君は今や會社職に殉じ幽明境を異にするとも其の志は永く業務の發展と一山安寧幸福の礎とならばました事を堅く信じて疑ひませぬ爾後私は諸君の志を体し悲痛の心に懷つて社務に精進し飽くまで諸君の犠牲を徒爾ならしめぬ機努力するの覺悟で御座います諸君向春秋に富み或は嚴父慈母と別れ又は良妻愛子を殘して果なき永劫の旅に上る其の彼を思ひ之を慰むべき私には只感極まつて言ふ所を知りませぬ在るの英靈よ幸ひに此の心事を酌み給へ

本月六日午前十一時第五坑内變災の爲め故渡邊兼吉君外十五名の諸子が遂に悼ましくも壯烈なる殉難を余儀なくさるゝに至りました我社は常に上下相戒め協力して只管事故の防止に細心の注意を方法とを怠らなかつたのであります

が神ならぬ身の計り知り得ない災禍は如何にする術もなく遂に諸子の生涯を奪はれた事は哀悼悲痛の極に堪へ得ないのであります惟ふに諸子は一死を以て職務に殉じました産業職の尊き犠牲者でありました之れ取りもなほさず軍人の戦死に較ぶべきは尊くも眞に從業員の龜鑑である

昭和二一年五月八日 入山探炭株式會社 社長 門野重九郎 弔辭

本月本日茲に葬場を設け殉難諸君の葬儀を執行致しまするに當り不肖漆野佐市郎從業員を代表して故渡邊兼吉君外十五名の靈に對し謹んで弔辭を奉ります不肖身を坑務所長に承けて以來深く人命の尊きを思ひ事業の性質上危険防止の施設に就きましたは聊かながら微力を致し常に部下を督勵して施設の全きを期し更に神明に祈つて災禍の絶對にながらべきを期して居りました然るに何事の呪ひなりしか茲に

昭和二一年五月八日 入山探炭株式會社 坑務所長 漆野佐市郎 弔辭

損害の程度は 七萬圓内外か

ガス爆發した原因については仙から遺族に對する扶助料、弔慰料を支給する額と社葬經費其の調査をなしつゝあるが、ガスが他雜費で其金額は約七萬圓位で爆發した個所は極めて狭いとあると言はれてゐる、磐城炭礦のなつて入坑作業をして居る者町田野坑の災害に比して遙かにも二十名内外であつたため犠牲損害の程度が低い事は不幸中の幸ひである。

▲醫師會の弔意 石城郡醫師會では入山炭礦瓦斯爆發平町役場では昭和元年下半年臨時三月末日納期の國稅附加稅及外の滯納者夥しく前者は其額百六十八圓九角八十三錢稅外即ち傳染病藥價、授業料四百九十四

▲石城の田植 石城郡内の苗代は既に種蒔も終り普通五分の發芽を見てゐるのに本年中旬頃から病虫害の驅除を徹底的に勵行して植付けの効果をはかる筈で一般の植付けは來月十日前後が最盛期であるらしい

▲滯納者で 手古攪る平町 最後の督促狀

石城地方には 傳染病患者が多い 炭礦や漁村が散在するため 梅雨期には尙更増ゆる

平警察署管内には比較的衛生思想圓九十三錢に達して整理上止む想が發達してゐない炭礦、漁村を得ざる事情の爲め此程から最等が散在してゐるため傳染病發後の督促狀を發して滯納處分に着手してゐるが、此手段を講ず入山炭礦と取引關係を持つ平町七十七圓四十二錢、後者は百十餘死した罹災者に見舞金を贈る一圓七十一錢の納入を見るに至るべく目下義捐金の募集をなして

▲腸チブス十八名 ▲デフテリ 三十五名 ▲バラチブス二名 合計五十八名で、五月に入つてから僅か五日間だけでチブス七名、デフテリア三名に上つてゐる、傳染病の多いのは内郷、好間、湯本、警崎等炭礦所在地並に小名濱、江名、豊間等海岸地であるが殊に梅雨期になるとこの數が多くなる例であるため平署では各町村役場と打合せの上衛生思想普及に努力する筈である。

▲齒の満足な兒童は 百人に三四人 平校の口腔審査を終つて 齒科醫 萩原義雄氏談

平齒科醫師會では過般來醫師總出で平第一校、平第二校兩校の兒童四千余名の口腔検査を行ひつゝあつたが、九日漸やく全部の検査を終了した、その成績について萩原義雄氏は語る。 延日數二十五日間を要して漸やく本日検査を終えました、成績は非常に悪く、普通の地方では成績が悪い處でも齶蝕其他口腔の満足でない者は百人中九十人であるので平小學校では百人中九十六七人が病氣のうちで満足な齒を持つてゐる者は僅か三四名に過ぎないといふ驚くべき不成績である、兒童別に見ると中流階級以上の子供が更に成績が悪いやうであるが、之は粗食者程齶蝕にかゝらぬといふ原則通り食物に起因してゐるためである。罹病者に對しては學校村邊屋齶蝕を見學し江名濱、で診療券を交付し平町の齒科小名濱を経て歸平した。

▲農業技術員會 石城郡内町村農業技術員會議は八日午前十時から元石城郡役所に開かれたが當日は縣から古河、永澤、赤池の三農村技術員臨席した

▲平醫師會總會 平醫師會總會は十二日午後一時から警察署樓上に開き大正十五年會則變更の件を協議する。

▲燈臺見學 平郵便局員は七日、八日兩日に

▲出入商人が 義金募集

すも相當の成績を擧げるに至るべく町當局として止むを得ぬ限り好ましからぬ事であるから納稅者は義務感念を尙一層自覺して之等の手数を要せざる様心掛けて貰ひたい。

出入商人が 義金募集

平警察署管内には比較的衛生思想圓九十三錢に達して整理上止む想が發達してゐない炭礦、漁村を得ざる事情の爲め此程から最等が散在してゐるため傳染病發後の督促狀を發して滯納處分に着手してゐるが、此手段を講ず入山炭礦と取引關係を持つ平町七十七圓四十二錢、後者は百十餘死した罹災者に見舞金を贈る一圓七十一錢の納入を見るに至るべく目下義捐金の募集をなして

▲齒の満足な兒童は 百人に三四人 平校の口腔審査を終つて 齒科醫 萩原義雄氏談

平齒科醫師會では過般來醫師總出で平第一校、平第二校兩校の兒童四千余名の口腔検査を行ひつゝあつたが、九日漸やく全部の検査を終了した、その成績について萩原義雄氏は語る。 延日數二十五日間を要して漸やく本日検査を終えました、成績は非常に悪く、普通の地方では成績が悪い處でも齶蝕其他口腔の満足でない者は百人中九十人であるので平小學校では百人中九十六七人が病氣のうちで満足な齒を持つてゐる者は僅か三四名に過ぎないといふ驚くべき不成績である、兒童別に見ると中流階級以上の子供が更に成績が悪いやうであるが、之は粗食者程齶蝕にかゝらぬといふ原則通り食物に起因してゐるためである。罹病者に對しては學校村邊屋齶蝕を見學し江名濱、で診療券を交付し平町の齒科小名濱を経て歸平した。

▲農業技術員會 石城郡内町村農業技術員會議は八日午前十時から元石城郡役所に開かれたが當日は縣から古河、永澤、赤池の三農村技術員臨席した

▲平醫師會總會 平醫師會總會は十二日午後一時から警察署樓上に開き大正十五年會則變更の件を協議する。

▲燈臺見學 平郵便局員は七日、八日兩日に

▲出入商人が 義金募集

裏切つた同僚を 数名で袋叩き

入山争議團員檢舉さる

湯本町入山炭礦争議團員吉田武十日午後六時から平劇場で開く男(一九)澤田助雄(一九)外数名等で講師は大審院部長谷幸次郎は八月午後九時頃今日まで行動大審院書記官古田歩、辯護士星を共にしてゐた諸井泰治(二七)與市の各氏で講演後陪審法宣傳を同町鐵道線附近に待ち受け活動寫眞を催はす。

生花陳列

平町南町生花師匠織田理徳女史は八日縣社子鐵倉神社祭典のため門弟其他の生けた生花、盛花、投入等を店頭飾り一般に縦覽せしめた。

青い男が恐い

九日朝平署に次の如き書面が舞ひ込んだ。「不治の病だ」と稱する青い男

時事問題について 讀者の意見を募る

吾等が住む石城の天地、將に將に多事多端である。市制を施かんとする平町にも幾多改善を迫られたものがあるではないか。更に附近を見よ、日く労働問題、小名濱港問題、日く何々々。之等に関し各位の忌憚なき御意見の投書を望む。

行數制限なし宛名編輯部

飛んだ不良青年 カフェーで捕はる

平町のカフェー並に料理店に數日前から毎夜の如く入りびたり大盛風をふかして遊興してゐた二十四五前後の男があつたので平署では舉動不審として檢舉し取調したところ右の者は宮城縣刈田郡小原村生れ當時住所不定無職齋藤榮治(二一)といひ手にへない不良青年で昨年中窃盗起訴猶豫の處分を受けその後罰金平町町活版業高橋勝吉氏は數日日前齋藤榮治からバスケットを

平劇場で 陪審講演會

平町役場、福島縣地方裁判所福島辯護士會主催陪審法講演會は三十日に處せられて以來何の職日前齋藤榮治からバスケットを

人骨を發見

バスケットから

三園會和歌集

例會席上探題(五)

- ◎尋花 よよこ鳥なれもみちひけ咲き初る花のみ山を尋ねてや見ん つね子
- ◎河水久澄 神代より流れたへせぬ五十鈴川いづくもみすみわたらん 新八
- ◎朝雲 朝なきたなひきわたる白雲と見わたるは花のやま 子
- ◎閑居机 人とはぬ處にしあれす窓のものと机によりて文のみを見る 次
- ◎草庵雨 庭の花いそげと降るかたもせせ草のいほは雨しつかなり 同人
- ◎夕花 越えて來し山のさくらを見かへれば霞ながらにくれかりけり 義正
- ◎朝花 咲く花のすかたはよへにかはらねとまた新らしきけさの面影 俊彦
- ◎社頭梅 梅がほるこをすみと神垣の北野の柱にうたふうひす 卓
- ◎行路梅 朝またき山路こえゆ我袖にうつつり妙ふ梅のまさかり 子
- ◎思花 雨につれ風につれて庭櫻あすはにかにとわははれにけり 方
- ◎車中見花 春雨のよしやふるとも小車のほろをばつし花を眺めん 次郎
- ◎門柳 過ぎかてに人は見らなむもわをめし門の柳のゆるなひきて 子
- ◎老人夜長 春の夜のみしかき夢をくりかへみの老いぬるをかこつ此頃 信重
- ◎静見花 きのふけふ花は見頃となりけり心しつかに子と眺めん

◎竹間燈 窓にあたる竹の葉風にをりくは庭の燈見わつかくれつ 友智

◎寄柳戀 春風になひくと見ても青柳のまよにはならぬ戀の道哉 潔

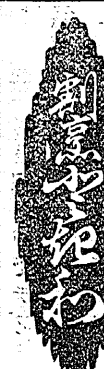
◎獨見花 つれたん友もなきさの磯櫻ひとり見る目もまたのこかなり 子

◎土筆 さは姫の雫かあらぬか生いて野へのつかさをかきつづくしは 千文



松ヶ岡公園に
春は訪る

三春行樂の巻を化した
公園池畔の
春の情景
を慕ひあれ



編輯日記
(九日) 馬村

▲入山の變災で天下の大倉喜八郎だ、金は幾らでも送らんと電報が來たそうだが、と言へば新坂本君「俺がそんな事を言はれたら氣絶するな」と真面目くさつて髯の剃跡を撫でる。

印刷物は 加納活版所

古來よりの **支那六神丸** 定價 一圓・二圓・五圓
真正の六神丸として好評偉大
復方チアスターゼ錠
あらゆる胃散にて癒さる人々に直ちに服用を勧む

大販賣店 **山野邊藥局**
平町五丁目角

春の洋服 は……
優美・高尚・廉價な
なかや洋服店へ
平町二丁目(電話二〇三番)

健腦強精・美血 新藥 **神活**
進んで頭腦明晰、元氣旺盛、精力絶倫を望む人は「神活」に依つて満足せらるべし

本舖 株式會社松田博愛堂
代理店 平町一丁目 **大平屋藥店**
電話六四二番

謹告

當坑務所第五坑坑内變災遭難死者社葬の際には御多用中御會葬を忝ふし難有奉深謝候混雜中尊名伺ひ洩り可有之候に付乍畧儀紙上を以て不取敢御禮申上候

昭和二年五月八日
入山採炭株式會社
坑務所